

令和7年度 学校推薦型選抜学生募集要項

- 障がい等を有する等の入学志願者との事前相談の申し出期限
令和6年10月4日（金）午後5時まで
- 出願期間
令和6年11月1日（金）～11月8日（金）
※11月8日（金）の郵送発信局消印有効
- 試験日程・集合時間
 - 絵画専攻（美術工芸学部）
令和6年11月23日（土）～11月24日（日）のうちいずれか指定する1日
 - 芸術学専攻（美術工芸学部）
令和6年11月23日（土）～11月24日（日）のうちいずれか指定する1日
 - デザイン専攻（美術工芸学部）
令和6年11月23日（土）～11月24日（日）のうちいずれか指定する1日
 - 工芸専攻（美術工芸学部）
令和6年11月23日（土）～11月24日（日）のうちいずれか指定する1日

 - 音楽表現専攻（音楽学部）
令和6年11月23日（土）～11月24日（日）
 - 音楽文化専攻（音楽学部）
令和6年11月23日（土）～11月24日（日）
 - 琉球芸能専攻（音楽学部）
令和6年11月23日（土）～11月24日（日）
- 合格者の発表
令和6年12月2日（月）午前10時 ※本学ウェブサイト掲載
合格者には合格通知書を郵送する
- 入学手続期間
令和6年12月6日（金）～12月13日（金）
※12月13日（金）の郵送発信局消印有効

令和6年7月



沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地
電話 (098)882-5080
<https://www.okigei.ac.jp>

令和7年度 沖縄県立芸術大学 学校推薦型選抜学生募集要項

目 次

第1	アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、 ディプロマ・ポリシー -----	1
第2	募集人員・出願資格・高等学校からの推薦人員・選抜方法	
1	美術工芸学部	
(1)	募集人員 -----	5
(2)	出願資格 -----	5
(3)	高等学校からの推薦人員 -----	5
(4)	選抜方法	
ア	美術工芸学部 美術学科 絵画専攻 -----	5
イ	美術工芸学部 美術学科 芸術学専攻 -----	7
ウ	美術工芸学部 デザイン工芸学科 デザイン専攻 -----	7
エ	美術工芸学部 デザイン工芸学科 工芸専攻 -----	8
(5)	試験科目一覧及び配点表 -----	8
2	音楽学部	
(1)	募集人員 -----	9
(2)	出願資格 -----	9
(3)	高等学校からの推薦人員 -----	10
(4)	選抜方法	
ア	音楽学部 音楽学科 音楽表現専攻 -----	10
イ	音楽学部 音楽学科 音楽文化専攻 -----	10
ウ	音楽学部 音楽学科 琉球芸能専攻 -----	10
(5)	試験科目一覧及び配点表 -----	11
第3	出願手続	
1	出願期間 -----	12
2	出願方法 -----	12
3	出願先 -----	13
4	出願上の注意 -----	13
5	受験票 -----	14
第4	試験期日 -----	14
第5	受験上の注意 -----	14
第6	不正行為 -----	15
第7	合格者の発表 -----	16
第8	入学手続	
1	入学手続期間 -----	16
2	提出書類 -----	16
3	入学料の納入 -----	16
4	入学手続送付先 -----	16
5	留意事項 -----	16
6	入学料の減免について -----	17
第9	その他	
1	障がい等を有する等の入学志願者との事前相談 -----	17
2	入試成績の情報提供について -----	17
◎	大学案内 -----	18
◎	沖縄県立芸術大学の概要 -----	19
◎	学生生活 -----	20

令和7年度 沖縄県立芸術大学 学校推薦型選抜学生募集要項

第1 アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1 教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

2 本学の求める人物像

- ・本学の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎的知識・技能を備えている人
- ・芸術に強い関心があり、自ら課題を発見し解決するための思考力や判断力、表現力を備えている人
- ・多様な芸術文化に興味を持ち、主体的に人々と協働し、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人

3 入学者選抜区分

- ・本学では一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜及び社会人選抜を実施します。

4 入学者選抜試験の基本方針と実施

- ・一般選抜においては、大学及び各学部のアドミッション・ポリシーに基づき、大学入学共通テストの成績を利用した選抜試験と個別学力検査等（実技検査、小論文、口述試験、面接等）を実施します。なお、大学入学共通テストについて、国語、外国語及びその他任意の1科目の合計3科目を試験科目として課します。
- ・学校推薦型選抜においては、実技検査、小論文、面接等を実施します。
- ・総合型選抜においては、実技検査、小論文、プレゼンテーション、面接等を実施します。
- ・音楽学部の社会人選抜においては、個別学力検査等（専攻試験、小論文等）を実施します。

いずれの試験においても、本学の学習に必要な「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）」を測り評価します。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、4年間を通して全学教育科目を選択履修し、全学年にわたり専門分野の実技や理論を基礎から高度な内容まで、段階的に履修することを基本に授業科目を編成します。

その上で、さまざまな技術や学問を幅広く主体的に学べるよう配慮し、学生の多様な個性を尊重しつつ、自ら感性を磨き、社会との関係を考え発信していく能力を高める教育を行います。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学では、大学及び各学部の教育理念に沿った専門教育と教養教育において成果をあげ、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出あるいは卒業演奏を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 美術工芸又は音楽の分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を歴史や文化、社会と関連付けて理解している。
- 2 知的活動や職業生活、社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を身につけている。
- 3 卒業後も社会的責任を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 4 1から3までの知識や能力等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探究し、解決する能力を身につけている。

美術工芸学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもちろん、造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を見出せる作家や研究者などの専門家の養成をめざします。高い技術や専門知識、総合的かつ国際的な視野を身につけ、次代を担う個性的で優れた人材を育成します。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもとより造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を担える作家、研究者、教育者などの専門家を育成するため、専門的素養と総合的知識、国際的視野を身につける教育を行います。

【求める人物像】

美術工芸学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び美術工芸学部の教育の理念をよく理解し、大学での学習に必要な基礎的な知識と技能を備えている人
- 2 美術・デザイン・工芸分野における制作や学習において、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を備えている人
- 3 美術・デザイン・工芸分野において作家、研究者、教育者などの専門家になる意欲のある人
- 4 芸術文化の多様な背景を理解し、人とのコミュニケーションを大切に考え、社会性を認識し主体性を持って他者と協働できる人
- 5 沖縄固有の芸術文化や自然等に関心があり、沖縄で学ぶことに意義を見出せる人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

美術工芸学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに総合点の上位から合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、実技検査、小論文、面接（プレゼンテーションを含む）を実施し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、絵画・デザイン・工芸各専攻は課題作品、小論文の提出と面接（プレゼンテーションを含む）を、芸術学専攻は小論文の提出と面接、口述試験を実施し、大学での学習に必要な知識、技能、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 3 総合型選抜では、彫刻専攻・工芸専攻は、専攻別に設定する試験（実技検査、小論文、作品資料の提出等）及び面接（プレゼンテーション含む）を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を測るとともに、本人の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定します。また、多面的、総合的な評価を行うため、面接等において、志願者本人が記載する書類等を活用します。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 専門分野の実技と理論において、必須科目を中心とした体系的な授業科目の編成
- 2 専門教育の4年間にわたる段階的履修
- 3 自らの学修計画に基づき主体的に履修できる選択科目の編成
- 4 大学の学修活動全体を通じて汎用的基礎能力を育成する教育の実施
- 5 現代社会における美術・デザイン・工芸の役割を認識し、地域との連携を図り、社会との関係を学ぶ教育の実施

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の学習目標の達成度を基準に、作品・論文・レポート・筆記試験等により行います。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、大学ディプロマ・ポリシーを基本に、加えて以下に掲げる学修成果を獲得し、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出を経て、所定の卒業単位を取得

した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 美術・デザイン・工芸の分野における基本的な知識を体系的に理解している。
- 2 自己の創造的活動を歴史、文化、社会、自然等と関連付けて考察できる。
- 3 専攻分野の専門的な技能と研究能力を身につけている。
- 4 卒業後も主体的に創作、研究を継続し、それらを社会に発信する意欲と能力を備えている。

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の養成をめざします。

豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄で育まれた個性ある音楽・芸能及び普遍的価値を持つ音楽芸術の体系的な研究を通じ、それらの継承発展とともに新たな芸術創造に寄与できる人材育成を目指します。そのために、専門分野における知識・技能を深めるとともに、広い視野を持って思考し、問題解決を行うために必要な教養を身につける教育を行います。

【求める人物像】

音楽学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び音楽学部のポリシーを十分理解し、大学での学習に自律的に取り組むことのできる人
- 2 音楽学部における学習に必要な基礎的知識・技能及び課題解決のための思考力・判断力・表現力を備えている人
- 3 自身の知識・技能をさらに伸ばし、将来、演奏家、作曲家、実演家、研究者又は教育者など、音楽・芸能分野における専門家となる意欲のある人
- 4 芸術創造の営みについて、現代社会との関わりの中で思考し、主体性を持って多様な人々と協働する意欲のある人
- 5 音楽や舞踊、沖縄における芸術文化や本学での学びに関心がある人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

音楽学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。その際、大学入学前に学んでおくべき内容・水準について、募集要項と併せて公表する『試験曲』によって明示するものとします。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）を総合的に評価します。

なお、入試区分及び募集枠ごとに、総合点に基づき合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語（英語はリスニングテストを含む。）及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査及び面接を課し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。本区分においては、全般的な学習能力について総合的に評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査及び面接を課し、大学での学習に必要な知識、技能及び主体性等を測り評価します。本区分においては、専門分野における高い能力、調査書及び志願者本人の記載する書類等をもとに実施する面接等における評価を重視します。また、高等学校校長からの推薦書を活用します。
- 3 総合型選抜では、専攻別に設定する専攻試験、プレゼンテーション及び書類審査・面接を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を測るとともに、本人の能力・適性や学習

に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定します。また、多面的、総合的な評価を行うため、面接等において、調査書及び志願者本人が記載する書類等を活用します。

- 4 社会人選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力及び主体性などを測り評価します。本区分では、専攻実技の習熟度及び小論文・口述試験の内容を重視し評価します。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 学生の多様な資質・能力を伸長するための少人数による教育
- 2 専門教育（主要科目）における、4年間にわたる段階的履修
- 3 各専門分野における基本的知識・技能を培うための、必修科目を中心とした体系的・横断的な科目編成
- 4 自然や地域、言語、芸術諸分野及び一般教養など幅広い教養を通して、汎用的基礎能力を身に付けるための全学教育科目の編成
- 5 学生の多様な関心や課題発見を促し自律的に学習できる選択科目の提供
- 6 様々な学びを統合し、地域・社会との連携を通して、芸術（音楽・芸能）と社会との関係を学ぶ科目の提供

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識、技能について体系的に理解している。
- 2 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識、技能について歴史、文化、社会、自然と関連付けて理解できている。
- 3 課題解決に必要な汎用的能力（論理的思考力、情報リテラシー、コミュニケーション・スキル等）を身につけている。
- 4 各分野の専門的な知識・技能と研究能力を身につけている。
- 5 卒業後も社会における自己の役割を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 6 獲得した知識や能力等を活用し、自らの課題を発見し解決する能力を身につけている。

第2 募集人員・出願資格・推薦人員・選抜方法

美術工芸学部及び音楽学部の学科・専攻別募集人員、出願資格、高等学校からの推薦人員及び選抜方法は次のとおりである。

1 美術工芸学部

(1) 募集人員

学科	専攻	募集人員	
		県内枠	全国枠
美術学科	絵画専攻	1人	1人
	芸術学専攻	1人	1人
デザイン工芸学科	デザイン専攻	3人	3人
	工芸専攻	5人	5人
計		20人	

注1：工芸専攻では2年次前期終了時に染分野、織分野、陶芸分野、漆芸分野の選別（選択制）を行い決定します。

注2：学校推薦型選抜の県内、全国それぞれの枠で定員に満たなかった人員は、他方の枠に導入することがある。

(2) 出願資格

次の要件をすべて満たしている者

① 高等学校又は中等教育学校を令和7年3月に卒業見込みの者（令和6年度の学年の中途において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められた者を含む。）

なお、県内枠に該当する受験者は、沖縄県内の高等学校を令和7年3月に卒業見込みの者（令和6年度の学年の中途において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められた者を含む。）で、本人又は保護者が令和6年4月1日以前から引き続き沖縄県内に住所を有している者とする。

② 学業成績・人物ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者

③ 調査書の学習成績概評がB段階以上の者

④ 合格した場合は、必ず入学することを確約できる者

⑤ 令和7年度大学入学共通テストにおいて、本学美術工芸学部が指定する教科・科目を受験する者

(3) 高等学校からの推薦人員

学科	専攻	推薦人員
美術学科	絵画専攻	1高等学校につき2人まで
	芸術学専攻	1高等学校につき2人まで
デザイン工芸学科	デザイン専攻	1高等学校につき2人まで
	工芸専攻	1高等学校につき2人まで

(4) 選抜方法

出身学校長が作成した調査書・推薦書・志願理由書等の出願書類及び次に示す選抜試験の成績結果を総合的に判断して合格者を決定する。

また、合格者を対象に大学入学共通テストを課す。

今年度は遠隔入試を実施する。遠隔入試とは、受験生が来校せずに受験する入試を指し、郵

送、オンライン、メール、電話等を利用した試験である。遠隔入試実施の詳細については、随時大学ウェブサイトにて公表するので、留意すること。

遠隔入試では『提出型試験』と、『オンライン（リアルタイム）型試験』の2種類の方法で実施する。

『オンライン（リアルタイム）型試験』については、オンラインシステム(Zoom 等)を使用する。詳細については本学ウェブサイトにて公開する。

課題作品、小論文等の提出物は出願時に送付すること。

ア 美術工芸学部 美術学科 絵画専攻

【課題作品・作品資料】

課題作品（素描及び着彩）

油画又は日本画の課題を選択する。

※用紙、画材等は各自で用意すること。

※課題作品は返却しない。

・油画（素描）課題：

「透明ビニール傘（1本）、フェイスタオル（1枚）、トイレットペーパー（1個）、玉ねぎ（2個）を机上で組み合わせ素描しなさい。」

※透明ビニール傘のメーカーは問わない。

※フェイスタオルの色や柄、メーカーは問わない。

※トイレットペーパーの色は白系統とする。メーカーは問わない。

用紙及び画材：木炭紙に木炭、又は画用紙に鉛筆。

作品サイズ：木炭紙は木炭紙サイズ。画用紙は木炭紙サイズパネルに水張り。画面の縦・横は自由。（※提出時はフィキサチーフで定着し、画用紙の場合はパネルから切り離さずに梱包し提出）

・油画（着彩）課題：「自画像を自由に着彩しなさい。」

用紙及び画材：キャンバスに油彩用具又はアクリル用具、画用紙にアクリル用具又は水彩用具。

作品サイズ：キャンバスはF15号、画用紙は木炭紙サイズパネルに水張り。画面の縦・横は自由。（※提出時はキャンバス、パネルから切り離さずに梱包し提出）

・日本画（素描）課題：「素描として、モチーフ：手を細密描写しなさい。」

用紙及び画材：画用紙に鉛筆。

作品サイズ：木炭紙サイズまたはF15号パネルに水張り。画面の縦・横は自由。（提出時はフィキサチーフで定着しパネルから切り離さずに梱包し提出）

・日本画（着彩）課題：「自画像を自由に着彩写生しなさい。」

用紙及び画材：画用紙に水彩用具。

作品サイズ：木炭紙サイズまたはF15号パネルに水張り。画面の縦・横は自由。（提出時はパネルから切り離さずに梱包し提出）

作品資料

1年以内に制作した素描、着彩（合計10点以内）を撮影し、プリントアウトした用紙（A4）をクリップで留めること。提出時は課題作品と共に提出（全用紙下部には、氏名、作品サイズ、制作年、ページ番号を明記する）

※作品資料は返却しない。

試験に関する留意点

- ・課題作品の作品裏面右上に氏名を明記すること。
- ・課題作品の作品裏面中央に上下がわかるように矢印（↑）を明記すること。
- ・課題作品と作品資料は共に梱包し、出願書類とは別に郵送等にて提出すること。（持ち

込み不可)

- ・作品等の提出先宛名には、受験する専攻名を必ず記載すること。
※課題作品、作品資料は全て自作であること。
※課題作品は額装しないこと。

【小論文】

- 課題：「あなたの好きな絵画作品を2点取り上げて論じなさい。」
400字詰め原稿用紙（B4判・縦書）に手書きで800字以内。
※原稿用紙1枚目の欄外右余白に、タイトル・氏名・高等学校名を記入すること。
※小論文は、出願書類と一緒に郵送等にて提出すること。（持ち込み不可）
※小論文は返却しない。

【面接】

- 課題作品、作品資料、小論文及び出願書類を基に面接試験を実施する。
※面接試験の実施方法及び開始時間については、各入学志願者に連絡する。

イ 美術工芸学部 美術学科 芸術学専攻

【小論文】

- 課題「任意の作品を一つ選び、それについて論じなさい。」
（400字詰め原稿用紙（B4版・縦書）手書きで7枚、2,800字以内）
※タイトルは自分でつけること。
※原稿用紙1枚目の欄外右余白に、タイトル・氏名・高等学校名を記入すること。
※執筆の際に参照した紙媒体の書籍・文献を一つ以上記すること。
※小論文は、出願書類と一緒に郵送等にて提出すること。（持ち込み不可）
※小論文は、返却しない。

【口述試験】

小論文を基に口述試験を実施する。

【面接】

- 出願書類を基に面接試験を実施する。
※口述試験・面接試験の実施方法及び開始時間については、各入学志願者に連絡する。

ウ 美術工芸学部 デザイン工芸学科 デザイン専攻

【課題作品】

- 「鉛筆デッサン」
課題：食材1点・キッチン用品1点・タオル類1点、以上3点のモチーフ（いずれも自分で選んだもの）を自由に配置して鉛筆デッサンした作品。
作品のサイズ及び枚数：B3サイズの画用紙を1枚提出すること。
※B3のデッサン作品は4つ折にして作品資料と共に郵送等にて提出すること。（持ち込み不可）
※課題作品は返却しない。

【作品資料】

- 受験者が3年以内に制作したもの（3点以上・10点以内、立体作品、サイズの大きい作品は写真にすること）をA4のクリアファイル1冊にまとめた作品集（氏名を明記する）。
※作品資料は、課題作品と一緒に郵送等にて提出すること。（持ち込み不可）
※作品資料は返却しない。

【小論文】

- 課題「あなたが改善したいと思う日常のデザインについて述べなさい。」
（400字詰め原稿用紙（B4版・縦書）手書きで1,200字以内）
※原稿用紙1枚目の欄外右余白に、タイトル・氏名・高等学校名を記入すること。
※小論文は、出願書類と一緒に郵送等にて提出すること。（持ち込み不可）

※小論文は返却しない。

【面接】

課題作品、作品資料及び小論文を基に面接試験を実施する。

※面接試験の実施方法及び開始時間については、各入学志願者に連絡する。

エ 美術工芸学部 デザイン工芸学科 工芸専攻

【課題作品】

①「鉛筆デッサン」

作品の大きさ及び枚数：A 3サイズの画用紙を3枚提出すること。（水張りパネル不可）

モチーフ：ペットボトル（500ml銘柄自由）・野菜または果物、以上2点のモチーフを自由に配置する。

②「作品ファイル・収集資料」

A 3サイズのファイル1冊にまとめる。

これまでに制作した作品や収集資料などのあなたの美意識をアピールできるもの。

※課題作品①②は出願時に郵送等にて送付すること（持ち込み不可）。

※①については返却しない。②については試験終了後に着払いで返却する。

【小論文】

あなたが作品制作をする際にテーマにしたいと思う「美しい自然（動植物・風景・現象など）」について述べなさい。

（400字詰め原稿用紙（B 4版・縦書）手書きで2,000字以内）

※原稿用紙1枚目の欄外右余白に、タイトル・氏名・高等学校名を記入すること。

※小論文は、出願書類と一緒に郵送等にて提出すること。（持ち込み不可）

※小論文は返却しない。

【面接】

小論文や調査書、推薦書等を基に面接を実施する。また、作品ファイルや収集資料等の中から、自分がアピールしたい主要な物を選び、それを基にプレゼンテーションを実施する。

※面接試験の実施方法及び開始時間については、各入学志願者に連絡する。

（5）試験科目一覧及び配点表

試験科目		小論文	課題作品	面接	口述試験	配点合計
美術学科	絵画専攻	200	400	100		700
	芸術学専攻	500		200	300	1000
デザイン工芸学科	デザイン専攻	300	300	300 [注1]		900
	工芸専攻	200	400	200 [注2]		800

注1：デザイン専攻の面接試験では提出された作品資料の説明も含む。

注2：工芸専攻の面接試験は、課題作品のプレゼンテーションを含む。

(6) 大学入学共通テスト

学校推薦型選抜の合格者を対象に、大学入学共通テストを課す。本学美術工芸学部が以下に指定する教科・科目の受験をしなかった場合及び科目の得点の中に0点がある場合は、合格発表後であっても合格を取り消すことがある。

教科	出題科目	選択方法
外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』 (英語はリスニングテストを含む)	必須 左記から 1科目を 選択
国語	『国語』	必須
地理歴史・ 公民	『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、 『歴史総合、世界史探究』、『地理総合／歴史総合／公共』、 『公共、倫理』、『公共、政治・経済』	必須 左記から 1科目を 選択
数学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅰ』、 『数学Ⅱ、数学B、数学C』	
理科	『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』、 『物理』、『化学』、『生物』、『地学』	
情報	『情報Ⅰ』	

※1 『地理歴史・公民』及び『理科』の2科目受験者については、第1解答科目の得点を評価の対象とする。

※2 『地理総合／歴史総合／公共』は、「地理総合」「歴史総合」「公共」のうち、いずれか2つを選択して解答。

※3 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」のうち、いずれか2つを選択して解答。

(備考) 『 』は大学入学共通テストにおける出題科目を表し、「 」は高等学校学習指導要領上設定されている科目を表す。

2 音楽学部

(1) 募集人員

学科	専攻	募集人員	
		県内枠	全国枠
音楽学科	音楽表現専攻	4人	6人
	音楽文化専攻	1人	1人
	琉球芸能専攻	3人	1人
計		8人	8人

注：学校推薦型選抜の県内、全国それぞれの枠で定員に満たなかった人員は他方の枠に導入することがある。

(2) 出願資格

次の要件をすべて満たしている者

① 高等学校又は中等教育学校を令和7年3月に卒業見込みの者（令和6年度の学年の中途において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められた者を含む。）

なお、県内枠に該当する受験者は、沖縄県内の高等学校を令和7年3月に卒業見込みの者（令和6年度の学年の中途において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められた者を含む。）で、本人又は保護者が令和6年4月1日以前から引き続き沖縄県内に住所を有している者とする。

② 学業成績・人物ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者

- ③ 調査書の全体の評定平均値が 3.0 以上の者。
- ④ 合格した場合は、必ず入学することを確約できる者
(注) 出願できる専攻・コースは一つとする。

(3) 高等学校からの推薦人員

学科	専攻・コース		推薦人員	
音楽学科	音楽表現専攻	声乐コース ピアノコース 弦楽コース 管打楽コース 作曲理論コース	制限しない	
	音楽文化専攻	沖縄文化コース 音楽学コース	制限しない	
	琉球芸能専攻		県内	制限しない
			県外	1 高等学校につき 1 人

(4) 選抜方法

大学入学共通テストを免除し、出身学校長が作成した調査書・推薦書・志願理由書等の出願書類及び次に示す選抜試験の成績結果を総合的に判断して合格者を決定する。

ア 音楽学部 音楽学科 音楽表現専攻

- 【専攻試験】
 - 【音楽に関する基礎能力検査】
 - 【面接】
- 詳細については、別冊子『令和 7 年度音楽学部試験曲』に記載する。

人物の志向性や学習を行う意欲、芸術を志す者としての資質さらに表現力をみるため、5～10分程度の面接を実施する。

イ 音楽学部 音楽学科 音楽文化専攻

- 【専攻試験】
 - 【音楽に関する基礎能力検査】
 - 【面接】
- 詳細については、別冊子『令和 7 年度音楽学部試験曲』に記載する。

人物の志向性や学習を行う意欲、芸術を志す者としての資質さらに表現力をみるため、5～10分程度の面接を実施する。

ウ 音楽学部 音楽学科 琉球芸能専攻

- 【専攻試験】
 - 【音楽に関する基礎能力検査】
 - 【面接】
- 詳細については、別冊子『令和 7 年度音楽学部試験曲』に記載する。

人物の志向性や学習を行う意欲、芸術を志す者としての資質さらに表現力をみるため、5～10分程度の面接を実施する。

(5) 試験科目一覧及び配点表

試験科目		専攻試験					音楽に関する基礎能力検査				面接
		実技 検査	コール ユープ ンゲン	初見視唱 ・演技	小論文	口述 試験	楽典 (※注2)	聴音	副科 ピアノ	音楽又は 舞踊の実 技 (※注3)	
音楽 表現 専攻	声 楽 コ ー ス	◎	◎				◎	◎	◎		◎
	ピ ア ノ コ ー ス	◎					◎	◎			◎
	弦 楽 コ ー ス	◎					◎	◎	◎		◎
	管 打 楽 コ ー ス	◎					◎	◎	◎		◎
	作曲理論 コ ー ス					◎	◎	◎	◎		◎
音楽 文化 専攻	沖縄文化 コ ー ス				◎	◎	◎			◎	◎
	音 楽 学 コ ー ス				◎	◎	◎	◎	◎		◎
琉球 芸能 専攻	琉 球 古 典 音 楽 コ ー ス	◎					◎				◎
	琉 球 舞 踊 組 踊 コ ー ス	◎		◎			◎				◎

注1：◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目を示す。

注2：沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、音楽表現専攻及び音楽学コースの楽典とは別問題とする。

注3：音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

注4：声楽、弦楽、管打楽、琉球古典音楽コース入学志願者の専攻試験の種目は以下のとおりである。

(声 楽) ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(弦 楽) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

(管打楽) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、テナートロンボーン、バストロンボーン、チューバ、

打楽器 (A：小太鼓、B：マリンバ)

(琉球古典音楽) 歌三線、琉球箏

注5：試験内容及び試験曲等については、別冊子『令和7年度音楽学部試験曲』（7月下旬、本学ウェブサイトにて公表予定）を参照すること。

◇ 配点表

試験科目	専攻試験	音楽に関する 基礎能力検査	面接	配点合計
音楽表現専攻	650	250	100	1000
音楽文化専攻	600	200	200	1000
琉球芸能専攻	700	200	100	1000

第3 出願手続

1 出願期間

令和6年11月1日（金）から11月8日（金）まで

2 出願方法

本入学試験はオンライン出願で行う。本学ウェブサイトからオンライン出願ページに進み出願手続を行うこと。

オンライン出願の際は、入学考査料支払後に入学志願票が入手可能となる。

入学考査料について

ア 17,000円（納入方法はオンライン出願ページの指示に従い、令和6年11月8日（金）までに納付すること。クレジットカード、コンビニ支払、ペイジー（Pay-easy）による納付が可能）。※領収書の提出は不要。

イ 別途手数料がかかるため留意すること。

ウ いったん納入した入学考査料は原則返還しない。

出願に際しては、入学志願票を含む下記書類を郵送（書留郵便で速達）する必要があり、その手続までが出願手続となるので留意すること。書類の提出は出願期間最終日の消印があるものに限り受理する。

*出願手続きについては「オンライン出願ページ」の注意事項を参照のこと。

沖縄県立芸術大学オンライン出願ページ

(URL:<https://www.okigei.ac.jp/examination/application-online.html>)

出願書類等	摘 要
①入学志願票	入学考査料支払後に、登録したメールアドレスにマイページのURLが送付されるため、マイページから入学志願票をカラー印刷し提出すること。氏名は戸籍に記入されている文字を正しく入力すること。日本国籍以外の者は在留資格を記載すること。現住所は願書記入時の住所でよい。（以下の書類も同様に） 入学志願票には上半身、無帽、正面、出願前3ヶ月以内に撮影したカラー写真データを用意し、オンライン出願ページでアップロードすること。不鮮明、背景が暗い、無背景でない、加工を施している、本人確認が困難等の写真は使用できない。 写真は入学後の学生証にも使用するため、 学校の制服姿は推奨しない。 ※受験票は、本学にて出願書類受理後にマイページから入手可能となる。
②調査書※	文部科学省所定の様式に従い、出身高等学校長が証明したもの（原本）を提出すること。
③推薦書※	本学所定の用紙を使用して、出身高等学校長が証明したもの（原本）を提出すること。
④志願理由書※	本学所定の志願理由書に、入学志願者本人自身が記入し、提出すること。
⑤住民票抄本 ※沖縄県内に限る	入学志願者本人か配偶者、又は一親等親族が令和6年4月1日以前から県内に住所を有する者は、合格した場合に入学料が軽減されるので、該当者の住民票抄本を提出すること。なお、住民票抄本が提出されない場合、入学料の算定は県外在住者と同様に扱う。

⑥その他※	<p>絵画専攻・芸術学専攻・デザイン専攻・工芸専攻入学志願者は、出願書類に小論文を同封して提出すること。</p> <p>課題作品と作品資料は共に梱包し、出願書類とは別に郵送等にて提出すること。（持ち込み不可）</p>
	<p>音楽表現専攻声楽コース入学志願者は、自由曲の伴奏用楽譜を提出すること。</p> <p>ア 提出楽譜は返却しない。</p> <p>イ 提出楽譜の大きさは1ページA4判を基準とする。</p> <p>ウ 提出楽譜は、表紙（A4判）を付けること。</p> <p>エ 提出楽譜は、表紙に曲目、調、氏名を明記すること。</p>
	<p>音楽表現専攻作曲理論コース入学志願者は、作曲又は編曲作品の楽譜を出願時に提出すること。口述試験時に提出作品の控えを持参すること。</p>
	<p>音楽文化専攻入学志願者は、小論文を提出すること。なお、提出する小論文はコピーを必ず取り、試験当日に持参すること。</p>
	<p>音楽文化専攻沖縄文化コース入学志願者のうち、「音楽又は舞踊の実技」で舞踊を行う志願者は、実演で使用する伴奏音源（CD）を提出すること。</p>
	<p>琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース入学志願者は、課題曲・自由曲の地謡用音源（CD）を提出すること。</p>

※音源提出をする受験生（音楽文化専攻沖縄文化コース演舞希望者・琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース）は、CD本体及びケースに受験するコースと氏名を記入し、郵送中に破損しないように梱包すること。ただし、提出されたCDは返却しない。

3 出願先（課題作品等の提出先も同様）

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地
 沖縄県立芸術大学事務局 教務学生課 電話（098）882-5080

4 出願上の注意

- ア 国公立大学の学校推薦型選抜への出願は、1つの大学・学部に限られる。
- イ 学校推薦型選抜志願者は不合格となった場合に備えて、一般選抜の分離分割前期日程・後期日程又は公立大学中期日程について、自由に3つまでの大学・学部にも併願することができる。ただし、大学入学共通テスト試験の指定教科・科目を受験していること、入学検定料を新たに納入することが必要である。
- ウ 出願書類の入学志願者の氏名は、通称・略字等は使用せず、丁寧かつ正確に記入すること。出願書類に記入漏れ、その他不備のある場合は受け付けない。
- エ 出願書類の受付後は、記載事項の変更は一切認めない。
- オ 出願書類の記載と事実が相違する場合は、入学後でも入学の許可を取り消すことがある。（音楽学部の出願者のみ）
- カ **声楽コース入学志願者**は、次の中から声種を1つ選択し、出願すること。
 ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス
- キ **弦楽コース、管打楽コース入学志願者**は、次の楽器の中から1種を選択し、出願すること。
 （弦楽器）ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス
 （管打楽器）フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、テナートロンボーン、バストロンボーン、チューバ、打楽器（A：小太鼓、B：マリンバ）
- ク **琉球芸能専攻琉球古典音楽コース入学志願者**は、次の中から1種を選択し、出願すること。
 歌三線、琉球箏

ケ 音楽文化専攻沖縄文化コース入学志願者のうち、「音楽又は舞踊の実技」で演奏を行う志願者は、使用楽器、曲名、作曲者名を出願時に記入すること。演舞を行う志願者は曲名を出願時に記入すること。ただし、即興演奏・即興ダンスなど特別な事情がある場合には、事前に申し出ること。

5 受験票

- (1) 受験票は、本学にて出願書類受理後にマイページからダウンロードできるようになるので各自で印刷し、試験当日に必ず携帯すること。
- (2) 令和6年11月18日(月)までに、マイページから受験票がダウンロードできない時は、本学教務学生課に連絡すること。

第4 試験期日等

美術工芸学部試験日程

令和6年11月23日(土)、11月24日(日)のいずれか指定する1日

※面接時間については、個別に連絡する。指定された時間の10分前にはオンライン接続できるよう待機すること。

音楽学部試験日程

令和6年11月23日(土)、11月24日(日)

集合場所(音楽学部試験のみ)

集合時間・試験会場等の詳細情報については、試験前日(11月22日(金))の正午に首里当蔵キャンパス管理棟前及びウェブサイトに掲示するので必ず確認すること。

第5 受験上の注意

- (1) 受験票は、出願書類受理後にオンライン出願サイトの「マイページ」からダウンロードできるようになるので各自で印刷し、試験当日に必ず携帯すること。
- (2) 指定時刻に遅れた者は、原則として受験を許可しない。ただし、やむを得ない事情(公的事情)により遅刻した場合は、ただちに大学に申し出ること。
- (3) 試験時間中は、監督者の指示に従うこと。
- (4) 試験の内容に関する質問には、一切答えない。
- (5) 試験中に不正行為が発覚した場合は、失格とする。また、試験の実施後に不正行為が発覚した場合についても、失格または合格取消とする。

【美術工芸学部の受験生のみ】

- (1) 受験生にはパソコン、スマートフォン、タブレット等の通信機器と、インターネット回線に接続できる通信環境を用意し、試験時には個室に1人で対応できる環境を整えることを求める。なお、事前に接続テストを行うので、その際も同じ環境で行うこと。
- (2) 試験に使用できる通信機器は1台とし(緊急時を除く)、試験中は電源に接続するか、事前に充電を行い、試験中に電源が切れることのないようにすること。
- (3) 受験者は、指定時刻にオンラインに接続できるよう待機すること。なお、試験当日は、余裕を持って待機すること。
- (4) 試験中の録画・録音は禁止する。
- (5) 通信機器が接続不可能となった場合は大学(098-882-5080)と連絡をとり、対応を相談すること。
- (6) オンライン(リアルタイム)型試験中に、試験と関係ない電話・メール等の着信があっても応答しないこと。鳴動し続ける場合、監督者に申し出て、着信を切断すること。

- (7) オンライン（リアルタイム）型試験開始から終了までは通信を切断すること及びウェブカメラの前から移動することは認めない。体調不良、トイレ等、やむを得ない場合には監督者に知らせ、その指示に従うこと。

【音楽学部の受験生のみ】

- (1) 受験者は、指定時刻に試験場内の指定の場所に集合すること。なお、試験当日は、交通の状況等も考慮して、余裕を持って試験場に向かうこと。
- (2) 試験当日は、特別に許可された場合を除き構内への自動車、オートバイ等の乗り入れを禁止する。
- (3) 携帯電話・スマートフォン等の電子機器類は、試験場室に入る前に電源を切り、イヤホン、ヘッドセット含めかばんなどにしまうこと。試験室内で手に持っていたり、身に付けていることを発見した場合、不正行為となることがある。
- (4) 試験中の録画・録音は禁止する。
- (5) 忘れ物等については、1週間以内に申し出ること。
- (6) 試験が午後にわたるときは、昼食を持参することが望ましい。
- (7) 試験時間中、机の上には指定された用具のみを置くこと。それ以外の物は監督者の指示した場所に置くこと。
- (8) 試験中に身体の具合が悪くなった場合は、監督者に申し出ること。
- (9) 指定の練習室以外の場所（集合場所、控室、廊下等）での発声又は楽器の練習を禁止する。
- (10) 音楽表現専攻・琉球芸能専攻の試験で使用する楽器のうち、ピアノ、マリンバ以外は各自持参すること。ただし、コントラバス、箏は本学で準備したものを使用してもよい。
- (11) 音楽文化専攻沖縄文化コースの「音楽又は舞踊の実技」試験で使用する楽器のうち、ピアノ、マリンバ、コントラバス、箏は本学で準備したものを使用してもよい。ただし、その他の本学の大型楽器の使用を希望する場合には、必ず事前に相談をすること。また、電子楽器等を持参する場合にも必ず事前に相談をすること。
- (12) 音楽文化専攻沖縄文化コースの「音楽又は舞踊の実技」試験で演奏可能なスペースは、4m(縦)×4m(横)×2.5m(高さ)程度とする。特別な演出等がある場合には、事前に相談をすること。
- (13) 試験で使用する稽古着（着物）、小道具は各自持参すること。
- (14) 実技試験では、時間の都合により、演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

第6 不正行為

- 1 提出論文等及び試験中に以下の不正行為が発覚した場合は、失格とする。また、試験の実施後に不正行為が発覚した場合についても、失格または合格取消とする。

不正行為

- ・提出論文、作品等の全部又は一部を入学志願者本人以外の者に作成させた場合
- ・提出論文、作品等において、生成AIの出力結果が使用されていると判断された場合
- ・入学志願者本人以外の者（生成AIの利用を含む）による試験解答への関与
- ・監督者の指示に従わない場合
- ・本項記載事項の他、入学試験に関し各種要項で禁止されている事項に反した場合
- ・試験に関する内容についてオンライン等を含め、第三者が閲覧、視聴できるような状態にすること
- ・その他、円滑な試験実施を阻害するとみなされる一切の行為

- 2 上記1以外にも、次のことをすると不正行為となることがある。指示に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、1と同様とする。

- ・許可された時間や場所以外で、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類やイヤホン、ヘッドセットをかばんなどにしまわず、身に付けていたり手に持っていること

- ・オンライン（リアルタイム）型試験において、関係のないパソコン、スマートフォン、タブレット等の操作をすること
- ・オンライン（リアルタイム）型試験において、「①辞書や参考書を見るために目線（視線）が頻繁に動く」「②意図的に通信を切断する」等、不正が疑われる行為
- ・指定された持参用具以外の物の持ち込み・使用を発見した場合
- ・「第5 受験上の注意」に記載されている電子機器類の使用に関する注意事項に反する行為

第7 合格者の発表

令和6年12月2日（月） 午前10時

合格者の受験番号は本学ウェブサイト（<https://www.okigei.ac.jp>）に掲載する。

また、合格者には発表と同時に合格通知書及び入学者心得（入学手続書類）を郵送する。

第8 入学手続

1 入学手続期間

令和6年12月6日（金）～12月13日（金） 入学手続書類等は郵送にて提出すること。

※12月13日（金）の郵送発信局消印有効

2 提出書類

ア 誓約書兼個人情報の取扱いに関する同意書

イ その他（合格通知書とともに送付する入学者心得に詳細説明）

3 入学料の納入

入 学 料 282,000 円 県内居住者以外の者 512,000 円

納入期限 入学料は本学指定の振込依頼書により入学手続時までには納入すること。

※県内居住者：入学の日（4月1日）の1年以前から引き続き県内に住所を有する者、あるいは、入学の日（4月1日）の1年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者又は1親等の親族のある者。

なお、入学料以外の授業料・実習経費・学外研究費については、本要項の「学生生活」を参照のこと。

4 入学手続送付先

沖縄県立芸術大学事務局教務学生課

5 留意事項

ア 学校推薦型選抜の合格者は、本学の定める入学手続期間中に入学手続を行わなければならない。

イ 学校推薦型選抜の合格者で特別の事情により入学を辞退する場合は、推薦を行った高等学校長を経由して「推薦入学辞退願」を入学手続期間内に本学教務学生課に提出し、本学学長の許可を得た場合に限り、入学辞退を認める。

ウ 学校推薦型選抜合格者は、入学又は入学辞退のいずれかの手続を行わなければならない。このいずれの手続きも行わない場合は、学校推薦型選抜合格者としての権利を消失する。この場合は、出願済みの他の国公立大学を受験することができない。たとえ受験しても、受験者として扱われない。

エ 本学においては、入学手続を完了した者に対し、入学までに取り組むべき課題を課すこととしている。

6 入学料の減免について

原則として高等学校の学業成績が 3.0 以上の者で、かつ、次の各号の一に該当する者を対象に、全額免除又は 2 分の 1 減額の可否を審査し決定する。

- ①天災その他不慮の災害により、学費の負担に堪えられなくなった者
- ②生活保護法（昭和 25 年法律第 144 号）による保護を受けている者と同一世帯内にある者
- ③前記①、②のほか、特別の事情により学費の納付が著しく困難な者

第 9 その他

1 障がい等を有する等の入学志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で障がいのある者等は、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性があるため出願の前に、あらかじめ本学に申し出ること。また、申し出に基づき相談が必要になった場合は以下によること。

- (1) 申し出期限 令和 6 年 10 月 4 日（金）午後 5 時まで
- (2) 相談の方法 本学指定の様式による相談申込書（健康診断書等必要書類添付）を提出することとし、必要な場合は、本学において入学志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行う。
- (3) 連絡先 沖縄県立芸術大学事務局教務学生課
電話番号 (098) 882-5080

2 入試成績の情報提供について

個人情報保護に関する法律に基づき、入試成績については、口頭により受験者本人が自己の入試成績の情報提供依頼を行うことができる。詳細は「令和 7 年度入学者選抜要項」を参照すること。

大 学 案 内

建学の理念

- (1) 日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容をもつものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。
- (2) 県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追求することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸・音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。
- (3) 我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを目指し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

沖縄県立芸術大学の概要

1 設置目的

沖縄県立芸術大学は、広く教養を養い、深く専門芸術の技術、理論及び歴史を教授研究して、人間性と芸術的創造力及び応用力を育成し、もって伝統芸術文化と世界の芸術文化の向上発展に寄与することを目的とする。

2 設置者 沖縄県

3 設置場所

首里当蔵キャンパス	〒903-8602 那覇市首里当蔵町1丁目4番地 本部 美術工芸学部（絵画専攻、芸術学専攻） 音楽学部（全専攻） 附属図書・芸術資料館 奏楽堂 体育館
首里崎山キャンパス	〒903-0814 那覇市首里崎山町4丁目212番1 美術工芸学部（彫刻専攻、デザイン専攻、工芸専攻）
首里金城キャンパス	〒903-0815 那覇市首里金城町3丁目6番地 芸術文化研究所

4 修業年限及び学位

- (1) 修業年限 4年
- (2) 学 位 学士（芸術）

5 教員免許状

教育職員免許法に定められた所定の単位を修得すれば、中学校教諭1種免許状（美術又は音楽）と高等学校教諭1種免許状（美術、工芸又は音楽）を取得することができる。

6 学芸員資格

博物館学課程所定の単位を取得すれば、学芸員の資格を取得することができる。

7 収容定員

学 部	学 科	専 攻	収容定員	
			入学定員	総定員
美術工芸学部	美術学科	絵画専攻	10	40
		彫刻専攻	5	20
		芸術学専攻	6	24
	デザイン工芸学科	デザイン専攻	20	80
		工芸専攻	24	96
小 計			65	260
音楽学部	音楽学科	音楽表現専攻	23	92
		音楽文化専攻	7	28
		琉球芸能専攻	10	40
	小 計			40
合 計			105	420

1 入学料及び授業料

- (1) 入学料 県内居住者 282,000 円 県内居住者以外の者 512,000 円
※県内居住者：入学の日（4月1日）の1年以前から引き続き県内に住所を有する者、あるいは、入学の日（4月1日）の1年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者又は1親等の親族のある者。
- (2) 授業料 年額 535,800 円（内訳 前期分 267,900 円、後期分 267,900 円）
納入期限 前期授業料は各年度の4月30日まで、後期授業料は各年度の10月31日までに納入すること。ただし、納入期限が土・日曜日又は国民の祝日にあたる場合は、その翌日までに納入すること。
- (3) 入学料及び授業料の減免
原則として高等学校の学業成績が3.0以上の者で、かつ、次の各号の一に該当する者を対象に、全額免除又は2分の1減額の可否を審査し決定する。
①天災その他不慮の災害により、学費の負担に堪えられなくなった者
②生活保護法（昭和25年法律第144号）による保護を受けている者と同一世帯内にある者
③前記①、②のほか、特別の事情により学費の納付が著しく困難な者
- (4) その他
上記（3）によらず特別の事情により入学料や授業料の納入が困難な場合は、事務局に相談すること。

2 授業料以外に必要な経費

- (1) 実習経費（美術工芸学部・音楽学部琉球芸能専攻）
美術工芸学部では、実習経費（4年間分）は次のとおりで、入学時に一括して納入し、過不足が生じた場合は入学後調整することになる。
①絵画専攻 300,000 円
②彫刻専攻 330,000 円
③芸術学専攻 70,000 円
④デザイン専攻 170,000 円
⑤工芸専攻 320,000 円

音楽学部琉球芸能専攻では次の経費が必要となる。
①古典音楽コース 約 80,000 円（黒朝・ハチマチ・長着稽古着代）
②舞踊組踊コース 約 15,000 円（長着稽古着代）
- (2) 学外研究費（美術工芸学部・音楽学部琉球芸能専攻）
美術工芸学部では、各専攻とも2年次あるいは3年次に予定している必修科目の経費として、各専攻 180,000 円（芸術学専攻は 160,000 円）を入学時に納入し、過不足が生じた場合は入学後調整することになる。
音楽学部音楽学科琉球芸能専攻では、3・4年次に予定している選択科目の経費として、実施年次に 180,000 円が必要となる。
- (3) 音楽事業演習費（音楽学部音楽学科音楽文化専攻沖縄文化コース）
音楽学部音楽学科音楽文化専攻沖縄文化コースでは、3年次に行われる必修科目の経費として、県外施設等で研修する場合は、実施年次に 80,000 円～120,000 円程度が必要となる。

3 奨学金制度

本学の学生で、人物、学力ともに優れ、かつ、健康で経済的理由により修学が困難と認められる者には、次の奨学金制度がある。

- (1) 日本学生支援機構奨学金（給付・貸与）
- (2) （公財）沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金（貸与）（沖縄県出身者のみ）
- (3) （公財）沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金（給付）
- (4) その他（地方公共団体、財団法人、その他奨学金制度の適用）

4 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険及び学研災付帯学生生活総合保険への加入

学生教育研究災害傷害保険（以下「学研災」という。）は、学生が①講義、実験・実習等への正課中、②学校行事中、③①②以外で大学の施設にいる間、④大学施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間、⑤通学中、⑥学校施設等相互間の移動中に不慮の事故により傷害を受けた場合に、保険金を支給する全国規模の補償制度である。

また、学研災付帯賠償責任保険（以下「付帯賠」という。）は、国内において、学生が正課、学校行事及びその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する。

上記の保険は、保険期間中に応じた少額の掛金を一度納入することにより、当期間中の災害に対し、治療日数及び災害内容に応じた補償がなされるので、万一の事故に備え、本学学生は全員加入すること。なお、加入手続は、オリエンテーションの際に行う。

学研災付帯学生生活総合保険は、「学研災」及び「付帯賠」の正課・学校行事中を補償する保険では不足すると思われる、24時間補償の保険である。

「学研災」や「付帯賠」とは異なり、保険の加入手続等引受保険会社と直接行うこととなる。（加入にあたっては、「学研災」や「付帯賠」に加入している学生に限り加入できる。）

※「学研災」及び「付帯賠」保険に係る掛金（保険料）と保険期間

	掛金（保険料）合計金額 （4年間分）	保険期間
学生教育研究災害傷害保険 学研災付帯賠償責任保険	4,660円	4年

（注）この保険に関する照会は、沖縄県立芸術大学事務局教務学生課に行うこと。

5 個人情報の取扱い

(1) 個人情報の利用目的について

出願及び入学手続きにあたって記入された氏名、住所その他個人情報は、以下の事項に付随する事務処理を行うために利用する。

- ①入学試験の実施
- ②合否通知、入学手続き書類の送付
- ③入試成績の情報提供
- ④学生の福利厚生に資する情報の提供
- ⑤学業および学生生活に関する管理、連絡および手続き
- ⑥大学の施設・設備の使用に関する管理、連絡および手続き
- ⑦本人および保証人への連絡、送付する各種書類の発送
- ⑧個人を特定しない統計処理

なお、不要となった情報の確実な破棄をはじめとし、提出された個人情報は個人情報保護法に則った万全の体制で管理する。

また、進路指導上、教育上の必要に応じて、受験者の入試結果および成績概要、在学中の履修状況や進路状況等を出身高校にお知らせすることがある。その際は本学と出身高校において守秘を前提とした万全の措置のもとに行う。

(2) 個人情報の第三者提供について

本学が取得した個人情報等は、以下のいずれかに該当する場合を除き、第三者へ提供、取扱いを委託することはない。

- ①利用者の事前の承諾を得た場合
- ②業務委託業者に対して、利用者に明示した利用目的の達成のために必要な範囲で個人情報等の取扱いを委託する場合

③法令の定めにより提供を求められた場合

(3) 情報主体の権利尊重について

本学は、個人情報等に関する情報主体の権利を尊重し、情報主体から事故情報の開示、訂正もしくは削除、又は利用もしくは提供の拒否を求められたときは、社会通念や慣行に照らし妥当な範囲でこれに応じる。

6 その他

(1) 本学には、学生寮施設がないので、学生はすべて自宅通学又は借家による通学となる。

(2) 入学後の授業等で使用するため、入学までにパソコン（又はタブレット等）及びインターネットに接続できる通信環境を整えておくことが望ましい。推奨される仕様については入学手続き時以降に周知する。

※受験番号

令和 年 月 日

推 薦 書

沖縄県立芸術大学長 殿

所在地

学校名

学校長名

印

電 話

下記の者は、貴学が実施する学校推薦型選抜制度の出願資格及び推薦要件に該当する者と認め、責任をもって推薦します。

記

ふりがな
氏 名

(令和 年 月 日 卒業・卒業見込)

推薦する学部

学部

学科

専攻

(コース)

- 1 推薦の経緯（校内における選考方法、推薦希望者数等について具体的に記入してください。）

(裏面も記入すること)

2 推薦理由（芸術について、特に秀でた資質・能力を有すると思われる点等について記入して下さい。）

3 その他、推薦者として特に明記しておきたい事項

※受験番号

令和 年 月 日

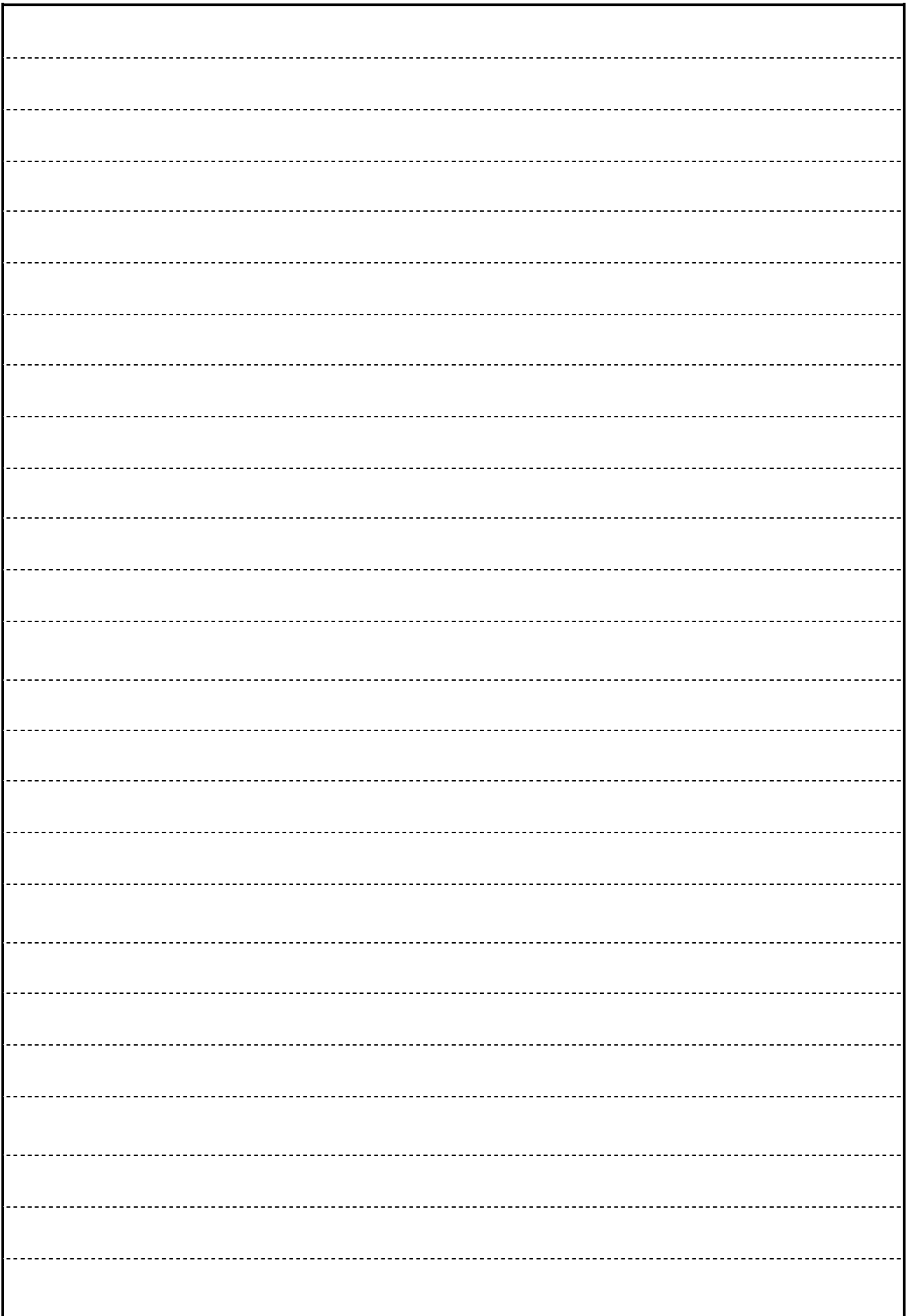
志 願 理 由 書

(必ず本人が記入すること。)

1 入学志願者氏名

2 志願理由 (進学の目的、将来の計画、自分の長所や特技等について自薦書となるよう詳細に記入すること。その際、成果獲得に向けた努力のプロセスについて記載するとともに、そこから学んだもっとも重要な事柄について具体的に記載すること。)

裏へ続く



出願書類等一覧表【学校推薦型選抜】

氏名	
----	--

以下の書類を順序どおりにクリップでとめ、一番上に本票を添付し、封筒に入れること。

順序	出願書類	チェック欄
1	入学志願票（マイページよりカラー出力）	<input type="checkbox"/>
2	調査書（必ず出身高等学校長が作成し厳封したもの）	<input type="checkbox"/>
3	推薦書（必ず出身高等学校長が作成し厳封したもの）	<input type="checkbox"/>
4	志願理由書	<input type="checkbox"/>
5	住民票抄本等（県内に居住する要件該当者）	<input type="checkbox"/> （該当者のみ）
	小論文（絵画・芸術学・デザイン・工芸専攻入学志願者のみ）	<input type="checkbox"/> （該当者のみ）
	伴奏用楽譜（音楽表現専攻声楽コース入学志願者のみ）	<input type="checkbox"/> （該当者のみ）
	作品（音楽表現専攻作曲理論コース入学志願者のみ）	<input type="checkbox"/> （該当者のみ）
	小論文（音楽文化専攻入学志願者のみ）	<input type="checkbox"/> （該当者のみ）
	音楽又は舞踊の実技の楽譜（音楽文化専攻沖縄文化コース入学志願者のみ）	<input type="checkbox"/> （該当者のみ）
	課題曲・自由曲の録音媒体（CD） （琉球舞踊組踊コース入学志願者のみ）	<input type="checkbox"/> （該当者のみ）

注1 この封筒は1人分のみとし、2人以上を封入しないこと。

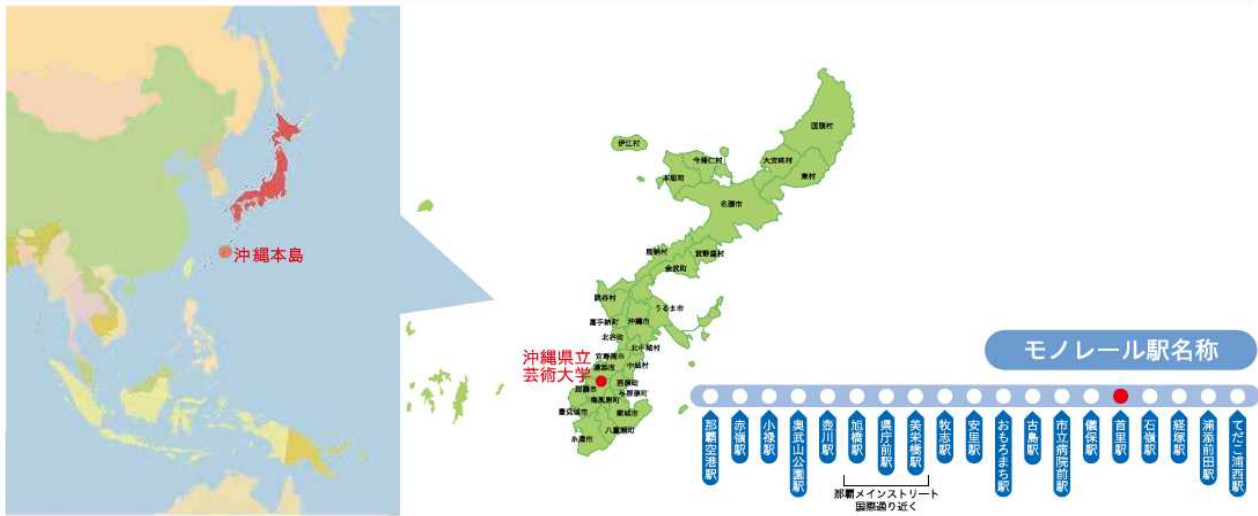
注2 美術工芸学部 of 課題作品と作品資料は共に梱包し、出願書類とは別に郵送等にて提出すること。

注3 受験番号欄（※）は記入しないこと。

※受験番号	
-------	--

アクセスマップ

沖縄県立芸術大学の位置 Location of the Okinawa Prefectural University of Arts



沖縄県立芸術大学周辺略図

首里当蔵キャンパス

【交通案内】首里当蔵キャンパス

- 自動車利用の場合
 - 那覇空港(那覇)より9.8km、約45分
 - 沖縄自動車道・那覇ICから、約10分
- モノレール利用の場合
 - 那覇空港駅より首里駅まで約35分、首里駅より徒歩約10分
- バス利用の場合
 - 「当蔵」バス停下車、徒歩1分
 - 系統番号 [1] 首里牧志線 [7] [8] 首里城下町線 [14] 牧志那覇循環線 [17] 石嶺(那覇)線 [346] 那覇西原線(鳥堀経由)

首里金城キャンパス

【交通案内】首里金城キャンパス

- 自動車利用の場合
 - 那覇空港(那覇)より9.8km、約45分
 - 沖縄自動車道・那覇ICから、約10分
- モノレール利用の場合
 - 那覇空港駅より首里駅まで約35分、首里駅からタクシー利用で約8分
- バス利用の場合
 - 「芸大第3キャンパス前」バス停下車、徒歩1分
 - 系統番号 [7] [8] 首里城下町線

首里崎山キャンパス

【交通案内】首里崎山キャンパス

- 自動車利用の場合
 - 那覇空港(那覇)より9.8km、約45分
 - 沖縄自動車道・那覇ICから、約3分
- モノレール利用の場合
 - 那覇空港駅より首里駅まで約35分、首里駅からタクシー利用で約6分
- バス利用の場合
 - 「芸大崎山キャンパス前」バス停下車、徒歩1分
 - 系統番号 [15] 寒川線
 - 「那覇インター前」バス停下車、徒歩5分
 - 系統番号 [1] 首里牧志線 [14] 牧志那覇循環線 [15] 寒川線 [16] 新川石嶺線 [18] 首里駅線(一周線) [19] 首里駅循環線 [111] [117] 高速バス [113] 具志川空港線 [123] 石川空港線 [127] 屋慶名高速線 [152] ライカム高速線 [191] [391] 城間線(一日縦経由)

首里崎山キャンパス

【交通案内】首里崎山キャンパス

- 自動車利用の場合
 - 那覇空港(那覇)より9.8km、約45分
 - 沖縄自動車道・那覇ICから、約3分
- モノレール利用の場合
 - 那覇空港駅より首里駅まで約35分、首里駅からタクシー利用で約6分
- バス利用の場合
 - 「芸大崎山キャンパス前」バス停下車、徒歩1分
 - 系統番号 [15] 寒川線
 - 「那覇インター前」バス停下車、徒歩5分
 - 系統番号 [1] 首里牧志線 [14] 牧志那覇循環線 [15] 寒川線 [16] 新川石嶺線 [18] 首里駅線(一周線) [19] 首里駅循環線 [111] [117] 高速バス [113] 具志川空港線 [123] 石川空港線 [127] 屋慶名高速線 [152] ライカム高速線 [191] [391] 城間線(一日縦経由)